

特集

新病院建設事業

実施設計進行中!

新病院建設事業は、設計の最終段階となる実施設計へと進んできています。また、新病院の敷地となる文化センター跡地では、既存施設を解体する敷地整備工事も始まりました。本誌5月号の特集で、新病院基本設計の概要についてお伝えしましたが、今号では、実施計画を進めるなかで、病院の使い勝手を検証し基本設計から変更した内容、来年度の工事発注に向けての進行状況などをご報告します。

基本理念の「思いやり」を、着々とかたちに

実施設計は、工事を行う際に必要となる詳細な設計図を作成する業務です。病院事業では、本年4月に設計業者と契約し、以降、設計業者とともに、来院される患者さんの流れや職員の使い勝手の検証を行い、電気や給排水設備の位置、備品の配置を決定するなど、医師をはじめとする病院職員の意見を中心に詳細な検討を行ってきました。

現在は、病院内部での検証、検討がほぼ終了し、設計図の内容が固まりつつあるところで、設計業者による最終確認の作業を行っています。今後は、確認後の図面により、建設工事の着手に必要な法手続き（建築確認申請など）を行っていきます。

新病院を進めるうえで、昨年12月に厚生労働省の「地域医療再生事業」に基づく「地域医療再生事業補助金」の事業採択を受けたほか、地中熱を利用した空調システム、また太陽光発電の採用に対し、新たな補助金が交付されることとなりました。国や長野県と連携しながら、引き続き事業の円滑な進行に努めていきます。

敷地整備工事は、現在「旧婦人の家」の解体を行っており、1月からは「蚕糸博物館・美術考古館」の解体を予定しています。ご不便をおかけしますが、工事中の事故防止など、安全な施工に万全を期していきますので、ご理解とご協力をお願いします。

建設のスケジュール

年度		23年度	24年度	25年度	26年度	27年度
設計・手続き	基本設計	■				
	実施設計		■			
	法申請			■		
	工事入札			●	●	
工事関係	博物館・旧婦人の家解体		■			
	新病院本体工事			■ 約22か月		
	本体外構工事		●			
	開設準備・引越し					●
	既存病院解体					■
	駐車場整備					■

《自然エネルギーを積極導入》地球環境負荷低減 CO₂削減

最大限の自然換気

建物中央にエコポイド(吹き抜け空間)を設置し、温度差による上昇気流を利用した、自然換気の促進を行います。

地中熱利用による高効率空調

地中熱と水熱源ヒートポンプを組み合わせることで、高効率な空調システムを構築します。通常の電気式パッケージに比べ、1.5倍程度効率となります。また、地中熱を蓄熱槽に貯めることで、ピークカットも行います。

太陽エネルギー・昼光の利活用

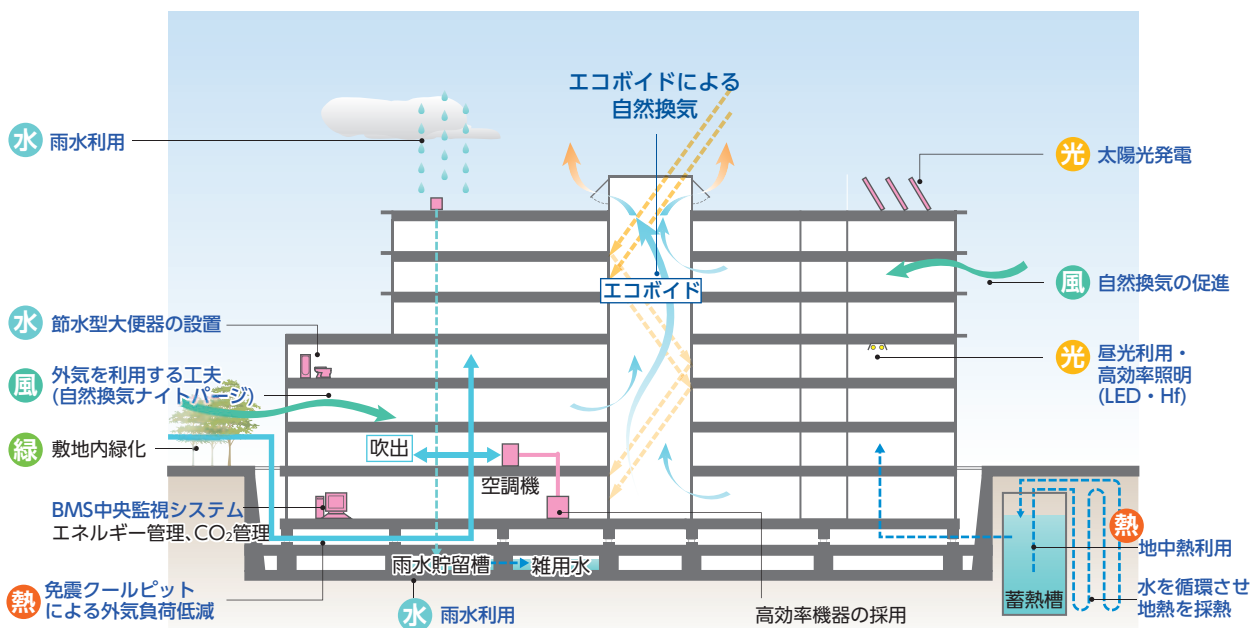
太陽光発電を導入し、低炭素社会に向けた自立的エネルギー源を確保します。

CASBEEによるAランク評価の獲得

省エネから建物の環境品質・性能、空間の快適性や景観への配慮までを総合的に評価・格付けする、CASBEE(建築環境総合性能評価システム)において、Aランク認定を獲得します。

[地中熱利用の空調システム]

地下に埋設した水槽(約2千トン)から、水をチューブで循環させ、地中の熱を吸収します。地中の温度は、年間を通じて約17度と安定しているため、この熱を、冬は暖房、夏は冷房に使用します。地中熱利用の冷暖房により、二酸化炭素の排出量を約50%削減できます。また、空冷式と異なり、外部への放熱がないので、温暖化対策としても有効です。もちろん、ランニングコストの削減にも大きく貢献します。



太陽光発電に対する補助

「グリーンニューディール基金事業」

(環境省 平成26年度)

補助内示額…3千万円

事業趣旨…再生可能エネルギーや未利用エネルギーを活用した自立・分散型エネルギーの導入により、災害に強く、小さい地域づくりを進める。

対象事業…防災拠点や災害時に機能を保持すべき公共施設に対する再生可能エネルギーや蓄電池、未利用エネルギーを導入する事業。

地中熱利用に対する補助

「地域再生可能エネルギー熱導入促進事業」

(経済産業省 平成24年度～26年度)

補助申請金額…3億3,474万円

(対象事業費の2分の1)

事業趣旨…エネルギーの安定確保およびCO₂排出削減など地球環境への配慮が求められるなか、地方公共団体などが行う再生可能エネルギー熱利用の加速的促進を図る。

対象事業…太陽熱利用、バイオマス熱利用、地中熱利用など、再生可能エネルギーを利用した先進的な設備を導入する事業。

地球環境への配慮とコスト削減を両立する新病院

より利用しやすい病院へ…

基本設計からのおもな変更点をお知らせします。

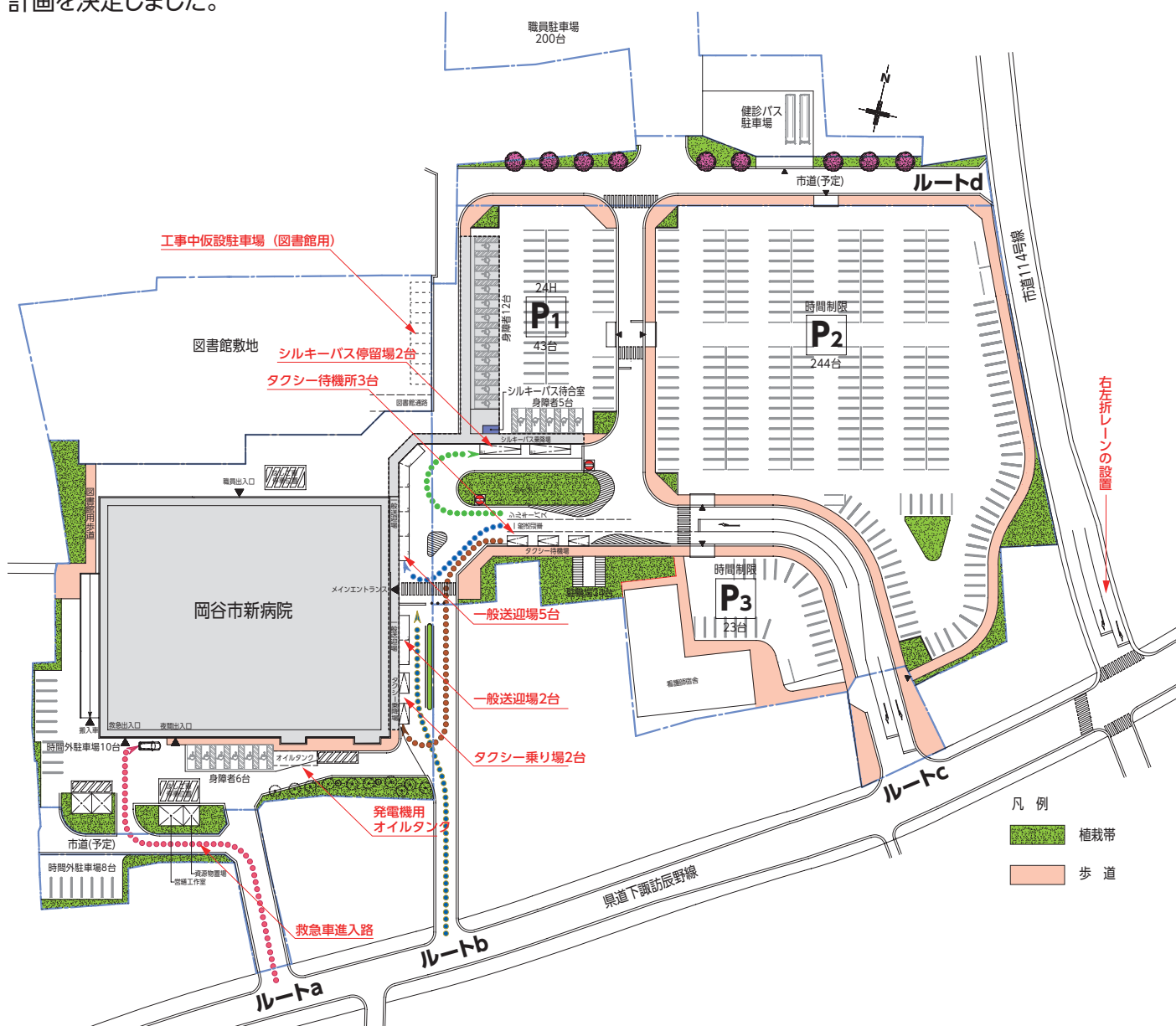
外構レイアウト

周辺道路から病院への進入ルート、また図書館利用者の駐車場やバス・タクシーの利用形態などを考慮し、駐車場計画を決定しました。

【駐車場】

県内外の自治体病院の実状や維持のしやすさなどを考慮した結果、「駐車場はゲートを設けず、無料とする」ことを基本としますが、[P2](244台)・[P3](23台)は夜間施錠し、夜間の利用を制限するなど、無断駐車対策を行います。一方、[P1]は施錠せず、24時間利用できる形態とします。

図書館利用者も、[P1]～[P3]を利用できます。

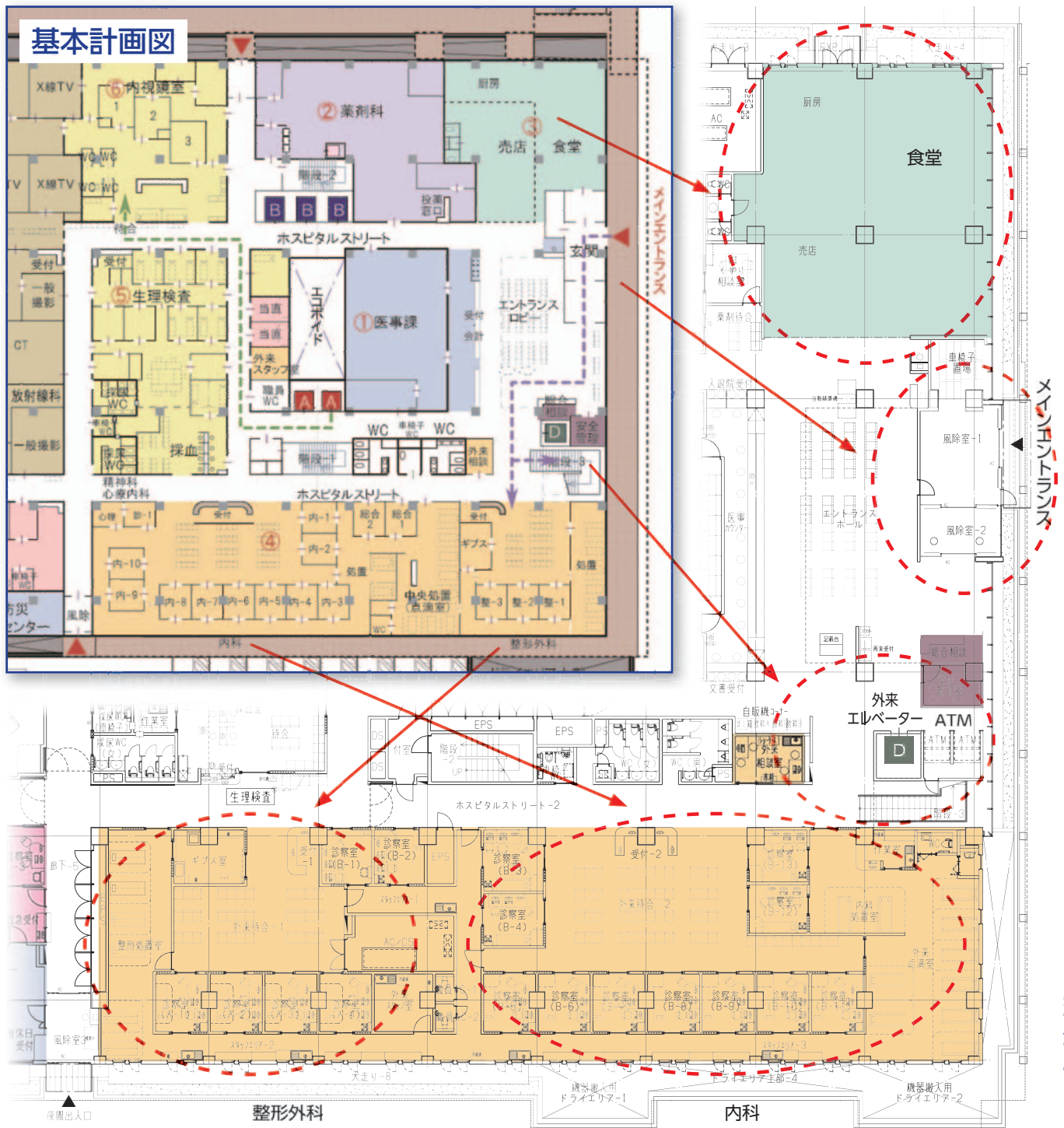


【バス・タクシー】

敷地内の車両通行を整理するため、敷地中央にロータリースペースを設けるとともに、ロータリーの南北にバス2台、タクシー3台が待機できるスペースを設けることにより、来院、また帰宅時の交通手段としてバス・タクシーが利用しやすいよう計画します。

【送迎用スペース】

来院、また帰宅の際、正面玄関に送迎車両を寄せられるよう、正面玄関前に一般車両7台、タクシー2台が停車できるスペースを設置しました。



実施計画図

1階

エントランス (玄関) において、「売店・食堂」のスペースを広く確保した分、風除室がせまくなっています。

このほか、外来用エレベーター (D) の向きを変え、また「内科外来スペース」と「整形外科外来スペース」の東西の位置を入れ替えました。

これらにより、外来患者さんの診察がスムーズになるほか、スタッフも動きやすい配置となりました。

病棟 (4~6階)

看護のしやすさを考慮し、2床室を減らし、4床室を増やしました。総病床数 (295床) は変更ありません。一方、小児病棟では、4床室を2床室としても利用できるよう、可動間仕切りを設置します。

これらのほか、セキュリティ確保のために、病院を訪れる人 (お見舞いや患者の家族) が必ずスタッフステーションの前を通るよう、部屋の配置などを変更しました。

問合せ ● 岡谷市民病院 新病院建設室 ☎23-8000